医療機関向け広報誌

News Letter

2025 [vol.19]

CONTENTS

■発刊にあたって
■事務部部長就任のお知らせ・医師着任のご紹介
■TOPICS／部門紹介 [呼吸器内科・呼吸器外科]
[脊椎脊髄外科・腫瘍内科]

社会医療法人 孝仁会
札幌孝仁会記念病院

事務部部長就任のお知らせ

事務部　部長
白水 郁也

4月より事務部長を務めております白水郁也と申します。
地域の先生方には、日頃より当院の医療連携に多大なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。
当院は、西区宮の沢にて、三大疾病と運動器疾患に特化した高度急性期医療を提供し、地域包括ケアシステムにおける急性期機能の一端を担っております。
また、「救急患者・紹介患者を断らない医療提供」を基本方針とし、紹介受診重点医療機関として、地域の医療機関の皆様との連携を最も重視しています。
事務部長として、紹介・逆紹介の円滑化や情報共有の充実など、先生方にとってより連携しやすい体制づくりに尽力してまいります。
地域医療のさらなる発展のため、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年入職した先生方紹介

循環器内科　望月　敦史

循環器内科の望月敦史と申します。これまで札幌医科大学附属病院で不整脈診療に携わってきました。カテーテルアブレーション治療実績が道内有数の札幌孝仁会記念病院で多くの経験を積めることに感謝しております。これまでの経験を活かしつつ、日々学びを重ねながら、施設のさらなる発展とより良い医療の提供に貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

循環器内科　鎌田　塁

2025年4月より当院循環器内科に着任しました鎌田　塁(かまだ　るい)と申します。
北海道大学病院では不整脈診療、特に心房細動に対する
カテーテルアブレーションを中心に研鑽を積んでまいりました。当院では、新たにパルスフィールドアブレーションを導入し、地域の皆さまに安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

心臓血管外科　渡部　克将

医師8年目の渡部克将（わたべよしのぶ）です。前任地はKKR札幌医療センターです。
これまで北海道大学病院、苫小牧の王子総合病院で勤務してきました。昨年度
心臓血管外科専門医を取得し、これからさらに修練を積みたいと考えていた時期に
多くの手術数を誇る当院に赴任させて頂ける機会を得ることができました。
皆様のお役に立てるように日々精進して参ります。よろしくお願いします。

麻酔科　秋山　徹郎

4月より着任いたしました北海道大学病院麻酔科専攻医の秋山徹郎です。
前任地の函館中央病院では、その周産期センターとしての役割から帝王切開術の麻酔を多く経験してまいりました。当院では心血管系の合併症を有する麻酔症例や、様々な術式に対応した区域麻酔など、麻酔科医としての成長に欠かせない経験をしています。外科医の先生方や、手術室運営に関わる諸スタッフの方々にもご指導ご鞭撻を頂きながら邁進してまいりますので、
どうぞよろしくお願いいたします。

発刊にあたって

院長
入江　伸介

当院は2016年10月、札幌市西区宮の沢に、脳卒中、心臓病、がんの三大疾病および運動器疾患を中心とした高度急性期病院として開院し、間もなく10年目を迎えます。
開院以来、「患者様が安心してかかれる、患者様を安心して預けられる病院を目指します」の理念のもと、患者様により安全で優しい低侵襲で高度医療を提供できるように日々取り組んでまいりました。
2024年11月には、日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG：Ver.3.0）を取得いたしました。病院全体の診療体制、安全管理、組織運営などについて厳正な審査を受ける中で、私たちの医療サービスの質と安全性に対する取り組みを改めて見つめ直す、大変貴重な機会となりました。
これからも、地域の皆さまや関係医療機関との連携を一層深め、地域医療の発展に貢献できる病院であり続けられるよう、職員一同務めてまいります。
今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

診療科紹介

病床数　276床　一般、ＩＣＵ、ＳＣＵ

『外科』

◎脳神経外科　◎頭頸部外科・耳鼻咽喉科
◎心臓血管外科　◎婦人科
◎消化器外科　◎乳腺外科
◎整形外科　◎泌尿器科
◎脊椎脊髄外科　◎形成外科
◎呼吸器外科　◎血管外科

『内科』

◎循環器内科　◎腫瘍内科
◎消化器内科　◎糖尿病内科
◎脳神経内科　◎腎臓内科
◎呼吸器内科
◎内科

『その他』

◎麻酔科
◎放射線治療科
◎放射線診断科
◎病理診断科
◎リハビリテーション科
◎臨床検査科
◎救急診療部

TOPICS／呼吸器内科・呼吸器外科

2025年7月より呼吸器内科に着任しました楠堂晋一と申します。
前職は札幌中央病院にて呼吸器内科疾患全般を一人で幅広く診察してまいりました。
当院の呼吸器外科医の三品医師は臨床経験が非常に豊富で、フットワークが軽く、彼が当院に在籍していたことが、当科に着任した契機となりました。
今後は協力しながら地域の皆様に質の高い呼吸器診療を提供してまいります。

呼吸器内科　診療部長
楠堂　晋一

気管支喘息・COPD

呼吸器疾患は、気管支喘息やCOPDなど有病率が高い疾患が多く、いずれも一定の専門的治療が必要とします。なかでも気管支喘息は、実際には診断が難しい疾患です。長引く咳が必ずしも喘息とは限らず、まずは他疾患を除外することが重要です。そのうえで、呼吸機能検査、呼気NOの測定を行いますが、実際の診断においては問診が最も重要であり、その問診には、経験とコツが求められます。

近年、生物学的製剤が保険適用となり、ステロイドの中止や減量が可能となり、治療成績が向上しています。

一方、COPDは不可逆性の病態であり、早期の治療介入が予後を大きく左右します。薬物療法だけでなく、患者教育も極めて重要で、禁煙指導、運動療法、栄養管理、インフルエンザワクチン接種の推奨など、生活習慣病としての包括的管理が重要です。

さらに、気管支喘息とCOPDを併存するACO（Asthma and COPD Overlap）の症例も珍しくありません。治療方針については明確な指針がないものの、より専門的な治療が必要です。

肺がん

近年、肺がんは増加傾向にあり、2021年には新規患者数が12万人を超えました。

部位別の罹患率では、男性は大腸がん・前立腺がんに次いで3位、女性は乳がん、大腸がんに次いで3位ですが、肺がんは依然として死亡数が高く、男性が1位、女性は2位（1位とほぼ同数）です。

早期肺がんは症状が出にくく、血痰、咳、胸痛などが現れる時点では進行していることが多いため、検診による早期発見が重要です。

胸部異常影の多くは炎症性変化などの良性所見ですが、中には肺がんが含まれる場合もあり、胸部異常影を認めた際や疑われた場合は、呼吸器内科医にコンサルトが非常に重要です。

当院では肺がんの診断を行い、手術可能症例は呼吸器外科へ、手術困難症例は放射線治療科と連携して治療を行っています。当院は道内屈指の放射線治療設備を有し、陽子線治療も可能です。呼吸器内科にとっては非常に心強い体制が整っており、私自身も20年以上にわたり肺がんの化学療養に携わり、切除不能進行期肺がんや緩和医療にも対応しております。当院がその役割を果たす上で、近隣の医療施設と密に連携をとることが非常に重要となります。

当院の気胸治療の特徴

当院の気胸治療は、少し独自の方針をとっています。日々の診療を通じて、患者さんにとって最善の治療を提供できるよう治療方法を最適化してきました。患者さん一人ひとりの状況に応じながら「痛みの軽減」「再発の軽減」「不安の軽減」の3つを目指して治療を行います。

痛みの軽減

①胸腔ドレーンをなるべく使用しません

酸素化が保たれていれば手術前にはドレーンを入れず、術後もエアリークがなければ手術室で抜去します。これにより、ドレーンによる痛みや挿入時の恐怖を避けられ、特に痛みに弱い若年男性に好評です。

②入院日に手術を実施し、入院期間を短縮

基本的に2泊3日で治療が完結します。

③再発を待たずに手術を実施

初回気胸の約8割が再発します。当院では明らかなブラが確認できれば初回から手術を行い、痛みを伴う治療回数を減らします。早期手術により再発の不安から解放し、QOL向上を目指します。

④外来での胸腔ドレナージ治療

携帯型持続吸引器「トパーズ®」を用い、入院せずに通院治療が可能です。重要な仕事や試験、就職活動など、人生の転機に発症した場合でも対応できます。

再発の軽減のために

手術を行っても、気胸再発はゼロにはなりません。当院の術後同側再発率は約8％、反対側の発症率は23％で、あわせると31％にのぼります。対側気胸の既往がある場合や、対側肺に明らかなブラがあり、患者さんが手術を希望する場合には、**両側同時手術**も行っています。ただし、術後再発は完全に防ぐことはできないため、その点は事前に丁寧に説明しています。

不安の軽減のために

当院では患者さんの再発不安を軽減する目的で「気胸カード」を配布しています。

カードには治療歴を簡潔に記載し、再発を疑った時にすぐに連絡できるよう電話番号を明記。

裏面は呼吸器外科・三品医師の名刺となっています。

緊急時には迷わずご連絡ください。

当院の呼吸器外科・気胸センターは、2022年1月の開設以来、3年間で300例以上の気胸患者さんをご紹介いただきました。医師から直接電話をいただければ、その日のうちに受診・治療ができる体制を整えています。
当センターは2010年、市立札幌病院呼吸器外科部長田中明彦医師とともに「気胸センター」を立ち上げ、その後勤務先が変わる中で、「気胸カード」を刷新しながら、15年間で延べ1,000人以上の患者さんにお渡ししました。
2025年7月からは、呼吸器内科の楠堂　晋一医師が着任し、今後も地域に根差した気胸治療を行ってまいります。

呼吸器外科　部長
三品　泰二郎

365日24時間対応しております。
お気軽に下記の医師直通までご連絡ください。

呼吸器外科・気胸センター（代表・日中）
011-665-0020
夜間休日直通（呼吸器外科直通）
080-9563-8606

TOPICS／部門紹介　腫瘍内科

腫瘍内科　診療部長
腫瘍センター　外来化学療法室室長
大原　克仁

2024年10月より、札幌孝仁会記念病院　腫瘍内科に着任いたしました大原克仁と申します。
前勤務先の北海道大学病院では、腫瘍内科医として各種固形がんの薬物療法に加え、がん遺伝子診断部の一員として、がんゲノム医療や遺伝子変異に基づく治験・臨床試験にも数多く携わってまいりました。
当院では、**主に乳がんの周術期および再発に対する薬物療法、消化器がん（胃がん・大腸がん・膵がん・胆道がん）の薬物療法を担当しています。**
外来化学療法室は10床を備えており、入院・外来いずれにも対応可能です。
がん薬物療法に関してお困りのことがありましたら、
どうぞ医療連携相談部を通じてご予約ください。
これからも、患者一人ひとりに最適な治療を提供できるよう努めてまいります。
どうぞよろしくお願いいたします。

～化学療法室のご案内～

当院の化学療法室は、リクライニングチェア4床、ベッド6床の計10床を備え、患者さんが快適に治療を受けられる環境づくりに努めています。
待合室には、抗がん剤治療による副作用に応じた対策情報を掲載したパンフレットのほか、ウィッグ、乳がん術後用の下着やパッドなどを展示しています。看護師が一人ひとりの不安やご希望に寄り添い、丁寧に説明・対応できる体制を整えています。
また、安心して治療を受けていただけるよう、最新の技術や情報を積極的に取り入れ、副作用対策にも力を入れています。

頭皮冷却装置「DigniCap　Delta（ディグニキャップデルタ）」を導入のお知らせ

このたび、脱毛による患者さんの苦痛を少しでも和らげたいという思いから、**頭皮冷却装置「DigniCap　Delta（ディグニキャップデルタ）」**を導入いたしました。
「DigniCap　Delta」は、高い脱毛抑制効果と発毛促進効果が期待される装置で、日本国内では3台目、北海道では当院が初導入となります。
今後も、脱毛を伴う治療を受けられる患者さんの精神的負担を少しでも軽減し、患者さんとご家族が安心して治療に取り組めるよう、スタッフ一同、心をこめてサポートしてまいります。

がん化学療法看護認定看護師
課長代理　松丸　亜紀

TOPICS／部門紹介　脊椎脊髄外科

脊椎脊髄外科　診療部長
村上　孝徳

2025年4月1日より、札幌孝仁会記念病院
脊椎脊髄外科・リハビリテーション科診療部長として着任いたしました。
札幌医科大学附属病院整形外科で約20年間、整形外科専門医として勤務し、その後、同大学リハビリテーション医学講座で約20年間、リハビリテーション専門医として勤務してまいりました。
独立した診療科としての「脊椎脊髄外科」は存在しませんが、私は整形外科専門医およびリハビリテーション専門医として活動しており、整形外科医としての20年間は、ほぼ脊椎疾患を専門に診療してまいりました。

リハビリテーションとは

「リハ」や「リハビリ」という言葉は広く使われていますが、本来どのような意味を持つのでしょうか。
リハビリテーションは**「リ」+「ハビリテーション」という合成語です。**最初の「リ」はリサイクルやリユースと同じく**「再び」**という意味で、「ハビリテーション」は**「適した状態」**という意味です。
つまり、**リハビリテーションとは「再び適した状態にする」ということです。**
ホットパックや電気治療、機能訓練などはリハビリテーションそのものではなく、それを実現するための手段にすぎません。リハビリを受ける方は、**「どのような生活を送りたいのか」「それが可能かどうか」**を主治医や看護師、療法士と十分に話し合うことが大切です。病気やけがを経て、これからの生活や人生がどう変わるか、そのために何を行い、何をあきらめなければならないのかを見極める必要があります。

奇跡よりも現実的な適応を

リハビリテーションは、決して元通りの生活を取り戻す魔法ではありません。
テレビや雑誌で紹介されるような奇跡的な回復はごくまれです。
受け入れるべきことは受け入れ、新しい生活を模索するのです。
それこそが「再び適した状態にする」というリハビリテーションの本質です。
この考え方はリハビリテーション科だけでなく、あらゆる診療科に共通するものだと考えています。患者さんの生活全体に目を配り、必要な助言を行うこと、これが20年間のリハビリ診療で得た最も大きな学びです。
現在は脊椎外科を中心に診療していますが、この姿勢は私の医療活動の基盤となっています。

慢性疼痛診療への取り組み

約20年前より慢性疼痛にも携わってきました。慢性疼痛とは、「こんなに痛いのに検査では異常が見つからない」といった状態で、患者さんの日常生活に大きな影響を及ぼします。前職では神経科とタッグを組んで診療センターを運営していましたが、当院でも引き続き同様の診療を行っていく予定です。

日頃より当院の運営にご理解とご協力を賜り、
誠にありがとうございます。
昨年度は新たに医療機関13歯科21施設との
ご縁があり、提携施設は計436となりました。
心より御礼申し上げます。
2025年度は患者相談支援担当課長が加わり、
医師1名・看護師7名・社会福祉士4名・事務職員5名の
多職種チームにより体制をさらに強化しております。
当院は「紹介受診重点医療機関」として、地域医療
機関との連携強化や外来機能の明確化に努め、
紹介患者さまには丁寧で的確、円滑な対応を
心がけております。
今後とも、地域に寄り添った医療の実現に向けて、
連携施設の皆さまとともに歩んでまいります。
引き続きご支援・ご協力を賜りますよう
よろしくお願い申し上げます。

医療連携相談部　部長　長島　雅人

2025年4月より、患者相談支援室に配置となりました
看護課長の渡邉陽子（わたなべ　ようこ）と申します。
患者相談支援室は、2025年の4月に新設された部署で
「断らない入院」をもとに、一般病床全体の一元的な
コントロールを行っています。
また、入院前から退院後の生活を見据えた介入を行い、
病棟や多職種との連携を強化しています。
患者様が安心して入院、治療が受けられるよう、少しでも
不安や心配事などがあれば早期に解決できるよう日々の
コミュニケーションを大切にしています。
4月より患者サポート窓口の看板を大きくしたことで
相談に訪れる患者様が増えたように感じています。
小さな疑問や心配事でも持ち帰えらず気軽に声をかけて
いただき解決につなげていきたいと考えています。
「この病院なら安心だ」と選んでいただける病院を目指し、
これからも努力を重ねてまいりますので
どうぞよろしくお願いいたします。

患者相談支援室　課長　渡邉　陽子

医療連携相談部

★患者様の受け入れに関するご要望・ご相談は医療連携相談部へご連絡下さい★

医療連携相談部の業務・受付時間

平　　日	9:00～17:00
土 曜 日	9:00～12:00

TEL：011-676-7430（直通）

FAX：011-665-0123（直通）

診療情報提供書、PET検査、アミロイドPET検査申込書の書式は、
当院HPよりダウンロードしご活用ください。

患者様のご紹介は診療情報提供書を
医療連携相談部へFAXにてお送りください。

FAX直通番号　011-665-0123

札幌孝仁会記念病院 News Letter
vol.19 2025年10月発行

発行者
社会医療法人 孝仁会
札幌孝仁会記念病院 医療連携相談部
〒063-0052 札幌市西区宮の沢2条1丁目16番1号
☎011-665-0020(代) 🖷 011-665-0242
https://sap-kojk.jp/　札幌孝仁会記念病院　検索

アクセス・周辺マップ

■バス
JR北海道バスまたは
北海道中央バス
「西町北20丁目」停下車、
徒歩約2分

■地下鉄
東西線「宮の沢」駅
5番出口から徒歩約6分
（地下道は
「ちえりあ」まで直結）